

## コロナ禍での教育活動

副校長 三村 里弥子

例年より短く、様々な制約があった夏休みでしたが、ご家庭や地域での生活や遊びを通して成長し、一生に一度しかないこの学年での夏休みを過ごされたことと思います。昨年度、地域の夏祭りに参加させていただき、日本の伝統をつなぐ夏祭りが根付いていることに感動したことを覚えています。子ども達の笑顔であふれていた夏祭りが中止になったことは残念ですが、アフターコロナの未来に向けて、今私達ができることを精一杯取り組んでいく必要があると感じています。

ウィズコロナの今年度は、多くの行事や教育活動ができない状況です。しかし、できないことばかりに捉われるのではなく、できることをやること、やるべきことをやるのが大切ですので、学びの機会の保障と安全な行事の実施方法について試行錯誤しています。

学びの機会の保障についてですが、臨時休業になったことをきっかけに、今後さらにICT教育が進むと予想されます。第2波・第3波にそなえて、8月中の放課後には、

「Zoomでつながるオンライン体験」を行い、児童と担任がつながる体験をしました。うまく繋がらない等の不具合もありましたが、放課後、担任や友達と楽しそうに話している子ども達の声があちこちの教室から響いてきました。環境を整えば、子ども達は新しい学び方に順応し、主体的に学んでいくことなのでしょう。そこから、対話的な深い学びにつながっていくことなのでしょう。保護者の皆様には接続のサポートにご協力いただき、ありがとうございました。

安全な行事の実施方法についてですが、教職員一同、形をかえて実施できないか検討しています。子ども達にとってかけがえのないこの学年での一年間が、楽しく思い出に残るものになるように、尽力していきます。

残暑が厳しい日が続いていますが、8月23日～9月6日は、二十四節気では「処暑」にあたり、暑さが止むという意味があるそうです。引き続き、感染症対策と熱中症対策に取り組んでいきますが、学校の花壇やプランターの花は暑さに負けずに、次々と花を咲かせており、季節はすすんでいることを感じます。

今後ご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

